

地域の将来像：住んでいる人々が誇れる郷 明日の小山田の創造

コミュニティだより

2023.9.15
第70号

明日の小山田を考える会の目的は、住んで良かった・ずっと住み続けたい・住み良い地域を創ることです。そのためには、地域の皆さんの積極的な関わりが必要です。

機械遺産と国指定重要文化財を巡る



7月17日、「親子歴史探検ツアー」を開催しました。親子5組10名が参加し東和町にある機械遺産と国指定重要文化財を巡りました。最初に機械遺産として登録された田瀬ダムに向かい、休日という事で直接管理者から説明を聞くことは出来ませんでした



伊藤家住宅

田瀬ダムが、資料館「田瀬ダムものしり館」でいろいろ学ぶことが出来ました。田瀬ダムは北上川上流改修工事五大ダム計画の一つとして建設された国直轄施行ダム第1号として昭和29年に完成しました。その後、「伊藤家住宅」と「旧小原家住宅」を訪ね、市総合文化財センターの酒井文化財専門官から説明を受け、参加された親子はメモを取ったり写真に納めたりしていました。昼食は「谷内伝承工房館」で川魚の甘露煮などの郷土料理を満喫しました。子供たちのアンケート用紙には、「楽しく学べた」、「郷土料理が美味しかった」などと感想が書かれていました。



旧小原家住宅

将来の小山田の農業を支える若者たち



将来の小山田の農業を支える若者たち12名が集まり「地域農業担い手育成塾」を7月30日に開講しました。この塾は小山田地域の農地を維持し、地域農業の継続と発展に向けて専門家による講義、視察研修・調査、ワークショップ等を行い、次代の小山田地域農業の担い手の育成に繋げるネットワークを構築する事を目的としています。塾長には、いち早く集落



営農の基盤づくりに取組んだ「農事組合法人町井アグリフレンドファーム」事務局長の薄衣忠孝氏が就任されました。開講式では薄衣塾長の講話と区画整備された圃場、地場産品を活用した加工施設の視察研修を行い、塾生から色々な質問等が多く出されました。



「地域の農業は自分たちが」という意気込みが感じられた一日となりました。さすが小山田の若者たち！今後、塾を通じてネットワークを拡げて行くものと確信しました。

集え若者たち！

若者の力を結集して小山田地域の農業を！



夏はオリジナルのうちわで涼風を



6月15日からスタートした「フラワー講座」の第2回目を7月27日開催しました。今回は「押し花のうちわ」づくりです。押し花を無地のうちわに思い思いに散りばめ、ふたつと無い自分オリジナルの花模様のうちわを作り上げました。材料の押し花は講師の佐野静子さんが自ら草花を摘み、

押し花に仕上げてくれました。佐野さんに感謝です。参加された皆さんは、仕上がった大小ふたつのうちわを手に持ち大満足で笑みを浮かべていました。今年の夏はオリジナルのうちわで花の香りの涼風を！ 次回は10月24日に「山の幸染め」にチャレンジです。



花巻に伝わる陶芸「台焼」を体験



今年も子どもたちの夏休みに合わせ、8月1日、花巻に古くから受け継がれている伝統陶芸「台焼」5代目窯元の杉村峰秀氏を講師にお招きし「陶芸教室」を開催しました。連日の暑さで体調を崩し参加できなかった方々がいましたが、参加した子どもたちは出来



上がりを想像しながらろくろを回していました。参加した保護者の方から「子どもの自由な発想が見れておもしろかった」などの感想をいただき、親子・孫との家庭とはまた違ったふれあいが出来たのではないのでしょうか。



再生可能エネルギーって、なに？



7月29日、きぬかわカレッジの受講生を含む地域の方々31名が参加し、21世紀の課題とされている「食料・環境・エネルギー」の問題に取り組んでいる葛巻町を訪ねて来ました。葛巻町では町の基幹産業である酪農と林業の振興を図るとともに、環境を生かした風力発電や太陽光発電、そしてバイオマスエネルギーの利活用に町全体で推進して

いるとの事でした。脱炭素社会へ向けたクリーンエネルギーの恩恵を日常生活に取り入れた取り組みを身近に実感できた学習となりました。



〈木質バイオマス熱利用システム〉



〈畜ふんバイオガスシステム〉



〈木質バイオマスガス化発電システム〉

育苗ポットを使った苗づくりに挑戦



7月21日晴天の夏空のもと、佐藤政行種苗の猿橋氏と藤澤氏を講師にお招きし「野菜講習会・楽しい家庭菜園」を開催しました。今回は育苗ポットを使っての野菜苗づくりを学びました。普段は既に育った苗を畑に定植したり、種を畑に直播している方が多く、育苗ポットでの苗づくりは初めてという方もいました。



講師から一通りの手順の指導を受け、受講した皆さんは、育苗ポットの土入れ・土の鎮圧・種まき前の散水・そして個々に育てたい野菜の種をまき・最後に種まき後の土の鎮圧と作業を順番に進めて行きました。種まき前後の土の鎮圧、種まき前の散水の重要性を知ることができて大変良かったとの感想が多く寄せられました。種まきを終えた育苗ポットは自宅に持ち帰っていただき、丈夫な苗に育て、畑に定植していただく事にしました。美味しい野菜を育ててください。



新会員も増え、運動と会話で和やかに

8月22日を初回に、新たな会員7名を含め今年度の「にこにこサロン」がスタートしました。今年度は、健康講話・3B体操などの軽体操・バスハイク・舞踊鑑賞などを予定しています。初回は花巻市長寿福祉課の晴山さんを講師にお招きし、体組成測定を基にした健康指導・映像を使っての口腔体操・軽体操・脚力を鍛える運動を行いました。晴山さんからは、出来るだけ外に出て歩く習慣をつけましょうという事で、歌と映像に合わせて640歩の室内歩行に挑戦しました。参加された皆さんは立ったり椅子に腰掛けたりしながら全員640歩達成することが出来ました。

8月22日 <長寿福祉課による健康教室>



9月5日 <冨手京子さんによる3B体操>

◎音楽にあわせて、ベルトを使っての軽体操



令和5年度 市政懇談会が開かれました



7月10日、今年度の市政懇談会が当振興センターで開催されました。花巻市からは、上田東一市長をはじめ、佐藤勝教育長、菊池郁哉東和総合支所長ほか7名の職員の対応となりました。冒頭の市長あいさつでは「昨日4年ぶりに防災訓練が開催されいろんな課題も出てきて今後に向け良かったと思います。」また、「今コロナ禍で感染者が増えています。第8波も考えられ個人の判断とはなりますが、出来るだけワクチン接種をお願いしたい。」と述べられました。懇談ではあらかじめ市に提出していたテーマについてお尋ねしました。一つ目は、令和4年9月に県が発令した「新たな土砂災害の発生のおそれがある箇所」に該当したことに伴う小山田振興センターの対応について。二つ目は、昨今小山田保育園在園児の減少が顕著に現れており、少子化に伴う花巻市内の保育園等について、それぞれ市の考えをお伺いしました。また、フリートークの場では、石鳩岡の千葉功さんから、市が管理する野球場の使用料について、また、古田の千葉良一さんからは、日中を含めた除雪対応について市の考えを伺いました。市政懇談会の事前テーマを含めたそれぞれの回答については後日公表となりますので、次号(第71号・11月15日発行)のコミュニティだよりに掲載いたします。

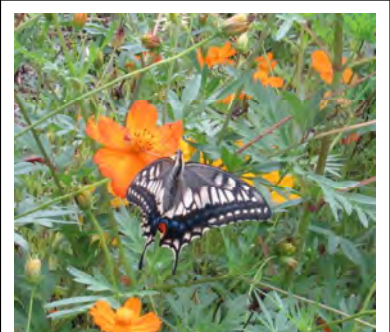
【 お詫び 】 8月15日開催予定でした「行政区対抗ソフトボール大会」は大会前々日からの大雨により水溜りが出来るなど、グラウンド状況が悪く、競技に支障を来す恐れがあることから、やむを得ず中止とさせていただきます。新型コロナなどにより4年ぶりの開催という事で各行政区では優勝を目指し気合十分でしたので大変残念です。運営側も用具を準備するなど開催を心待ちにしておりました。地域内行事で使いたい場合は用具の貸出をしますのでご連絡ください。



令和5年8月末現在

(): 前月比

小山田の人口	世帯数/戸	男/人	女/人	計/人
第1行政区	57 (0)	80 (0)	68 (-1)	148 (-1)
第2行政区	145 (-2)	190 (-1)	185 (-2)	375 (-3)
第3行政区	151 (0)	201 (-1)	223 (0)	424 (-1)
第4行政区	112 (-1)	171 (-1)	162 (0)	333 (-1)
計	465 (-3)	642 (-3)	638 (-3)	1,280 (-6)



キバナコスモスとアゲハ蝶
(北川目/2023.9.7撮影)

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています

～ 編集後記 (菊池) ～

2023年度の都道府県別最低賃金が先日発表され39円～47円引上げられました。全国の加重平均額は前年比43円増の1004円となり、初めて1000円を超え、引上げ額も過去最高となりました。岩手県は目安を下回らなかったものの最も低い39円、最低賃金も893円と都道府県で最も低い単独最下位となりました。日々変化する物価高騰の中、私たちはどう生活していけばいいのか先行きが不安です。他の都道府県と肩を並べる日はいつくるのでしょうか。



発行：明日の小山田を考える会 電話：0198-42-2941
ホームページ：http://www.asuno-oyamada.jp
メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp